

稲作だより

第1号 育苗準備編
令和8年3月11日

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動最上地域本部 最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1333

水田の雪解けも着実に進み、春への足音が近づいてきております。
育苗場所の除雪や融雪剤散布など、計画的に春作業を進め、今年の稲作を
スタートしましょう。

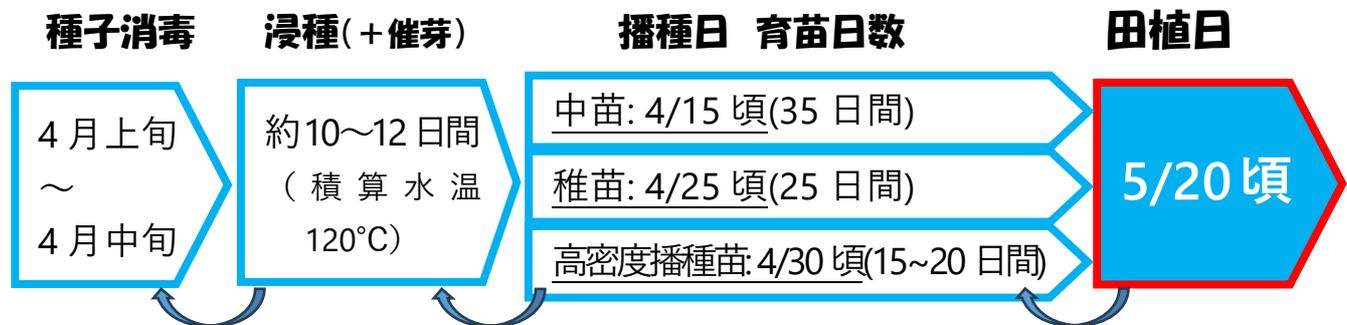
◎早めの融雪

育苗予定地において、育苗時期までに融雪が見込めない場合は、早めの除雪や融雪剤等の散布を行いましょう。

◎田植日から逆算して計画的な育苗を

苗の種類ごと（稚苗、中苗、高密度播種苗）に適正な育苗日数が異なるため、田植日から逆算し、計画的に作業日程を設定しましょう。

初期茎数を安定して確保するためには、健苗（ずんぐりしていて老化していない苗）を適期に移植しましょう。



5/20頃の田植えを目標とした育苗作業計画の例

◎播種前作業のポイント

1 塩水選

塩水の比重（うるち 1.13、もち 1.08）を確認して充実した籾を選別しましょう。また、塩水選後は、種籾をきれいな水で洗いましょう。

2 種子消毒

使用する水、網袋や容器等は清潔なもの用いましょう。薬液や温湯につける際は、袋をよくゆすり内部まで液を浸透させましょう。

◎ 薬剤処理

薬液の温度が低すぎると薬剤処理の効果や種子の発芽に悪影響がでる可能性があります。処理開始時は 10℃以上の水温を確保しましょう。

県内で、プロクロラズ剤（商品名：スポルタック乳剤、スポルタックスターナSE）耐性ばか苗病菌が確認されているので注意しましょう。

◎ 温湯消毒（**うるち品種のみ** ※もち品種は発芽率が低下する可能性あり）

保温機能がある専用機械を使用する場合は、「**58℃ 20分**」または「**60℃ 15分**」浸漬が目安になります。

※塩水選後、温湯消毒まで1時間以上経過する場合は、いったん籾水分を15%以下まで乾燥させてから処理しましょう。

◎浸種・催芽 ～低水温・長期間の浸種は厳禁！～

◎ 浸種は **水温 10～15℃、積算水温 100～120℃** が目安です。

特に、**浸種開始時の水温が低すぎると発芽率が低下します。浸種開始時の水温が10℃以上**になるように、水温が低い場合は温水を加える等の対応を行いましょ。

4月は気温が高くなる予想となっています（気象庁3か月気温予報）。

水温が15℃を超えるとばか苗病が発生しやすくなるため、直射日光を避け水温が上がりにくいようにしましょ。

品種別 浸種時間の目安

品 種	積算水温	浸種日数の目安
はえぬき、雪若丸、つや姫、あきたこまち、ひとめぼれ、コシヒカリ、山形95号	120℃	10℃12日間
ササニシキ、ヒメノモチ	100℃	10℃10日間

◎ 催芽は **水温 30～32℃、20時間浸漬** が目安です。ハト胸状態を必ず確認してから終了しましょ。 ※ヒメノモチは伸びやすいので特に注意を！

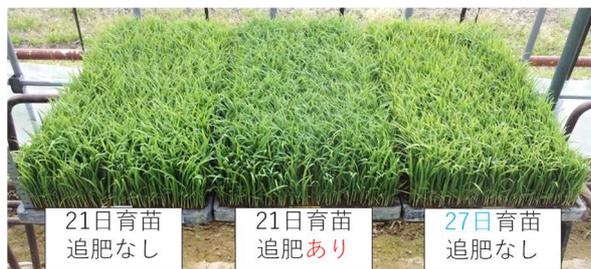
◎高密度播種苗の注意点

高密度播種（乾籾250～300g程度/箱）が増えていますが、次の点を充分に理解した上で用いませ。

①高密度播種苗は**老化しやすく、移植適期幅も狭いため、育苗期間を15～20日程度**として、計画的に播種しましょ。

②慣行苗（150g程度/箱）と比較して、**苗が細く充実が劣るため、初期莖数は増加しにくくなります。**また、浅植えや浮き苗、転び苗、植え穴の戻りが悪い条件等で、苗の根や基部が露出しやすいため、田植同時処理の除草剤による生育抑制を受けやすくなります。このため、**植え付け深さや移植時の田面の硬さに充分注意して移植する必要があります。**

③移植後の生育停滞を防ぐために、**移植3日前頃に箱当たり窒素成分1g程度**の追肥を行いましょ。



高密度播種苗の育苗日数と追肥の有無
(移植3日前追肥 1gN/箱、はえぬき)

**令和8年の農作業が始まります。
農作業は、あせらず！気もまず！慎重に！**